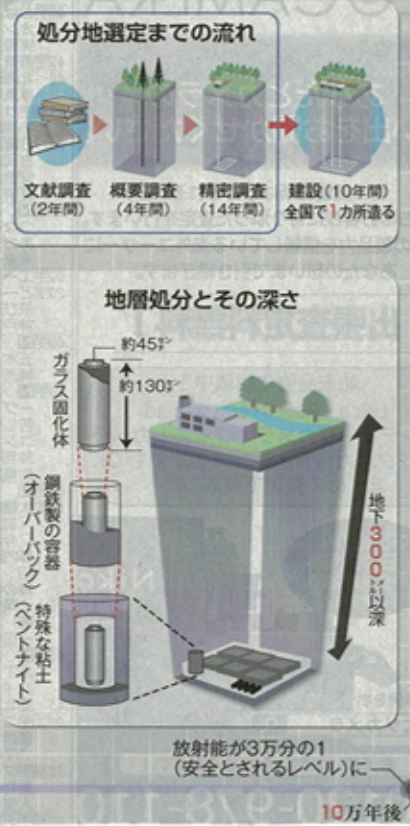


核のごみ無害化まで10万年

核のごみ考えるヒント

放射能無害化まで10万年



1895年 放射線(エックス線)の発見
1945年 広島、長崎に原子爆弾投下
51年 世界初の原子力発電(米国の高速増殖炉)
66年 国内で原発運転開始(日本原電東海原発)
89年 道内で原発運転開始(北電泊原発1号機)
2011年 東京電力福島第1原発事故
2050年以降 地層処分開始?
2120年以降 処分場閉鎖?

放射能が3万分の1(安全とされるレベル)に 10万年後

使用済み燃料2万6千本分 処分場調査進むと交付金増

北海道電力の泊原発に近い後志管内の寿都町と神恵内村が「核のごみ」の問題に悩んでいます。寿都町は1カ月前に民間調査会社が核のごみの処分場選定に向けた国の調査への説明会を開催しています。神恵内村では、先週町民向けの説明会を開催し、町長の商工大会で町民の意見を求める機会を捉え、今週初めの定例会で審議される予定です。核のごみはほんのりなものか、応募した場合はどうなるのか、あらためてお伝えします。

20秒で致死量に

製造後のガラス固化体は人が近づけば20秒で致死量に達するほど強い放射線を出します。福島事故前の国の試算では約4万本分を全国で1カ所所定の処分場に埋め込む方針です。再稼働が進まない中で今更なる増強が必要とされています。ガラス固化体の放射線が1000年後には1000分の1に、1万年後には1万分の1に、10万年後には3万分の1に減衰すると言われています。

一人一人が「自分事」に 対立より対話を

「泊原発の電気を止めてきた道民一人一人が『自分事』として考えてほしい」と、核のごみ問題をめぐって寿都町長と神恵内町長の対談が注目を集めています。両町長は、核のごみ問題をめぐって対立しているのではなく、対話を通じて解決の道を探りたいと考えています。核のごみ問題は、単に町長の話ではなく、町民一人一人が「自分事」として考える必要があります。

矢島社長「女性起業家」優秀賞に



【岩見沢】市内で障害者の就労支援として菓子の製造販売をしている「パティスリー空音」運営元のシユウワの矢島幸子社長(40)が、本年度の「女性起業家大賞」(全国商工会連所女性会連合会)を受賞した。道内の優秀賞以上は今年初めて。受賞したのは創業5年未だや三沢、石狩管内新築津村町が対象のスタートアップ部門から26人が選ばれる。矢島社長は、まだ事業のスタート時点から障害者の就労支援を目的として創業した。創業当初は、障害者の就労支援を目的として創業した。創業当初は、障害者の就労支援を目的として創業した。

2町村同時 異例の展開

核のごみ問題の展開が異例な動きを見せている。寿都町と神恵内町が同時に核のごみ問題の調査に着手した。これは、これまでになかった異例な展開である。両町は、核のごみ問題の調査に着手し、町民への説明会を開催し、町長の商工大会で町民の意見を求める機会を捉え、今週初めの定例会で審議される予定です。核のごみ問題は、単に町長の話ではなく、町民一人一人が「自分事」として考える必要があります。

政策決定へ 諸願は材料
倫理観欠如
経済産業省
岩見沢市議会